

病防第71号
平成27年8月5日

各関係機関長 様

熊本県病害虫防除所長

病害虫発生予察注意報について（送付）

このことについて、平成27年度病害虫発生予察注意報第4号を公表しましたので、送付します。

注 意 報

平成27年度病害虫発生予察注意報第4号

農作物名 果樹類（カンキツ類、ナシ、カキ、モモ等）
病害虫名 果樹カメムシ類（チャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ）

- 1 発生地域 県内全域
- 2 発生時期 8月中旬～
- 3 発生程度 多

4 注意報発表の根拠

- (1) チャバネアオカメムシの7月以降の予察灯誘殺数は、宇城市および天草市で7月2半旬から増加し、宇城市平年比多、天草市平年比やや多の発生であった（図1、図2、表1）。また、7月以降のフェロモントラップ誘殺数は、天草市では、7月2半旬から誘殺数が増加し、平年比多の発生であった（図2、表1）。
- (2) ツヤアオカメムシの7月以降の予察灯誘殺数は、宇城市で7月2半旬から増加し平年比多の発生であった。合志市および天草市は平年比やや多の発生であった（図1、表1）。
- (4) 7月下旬に調査した、ヒノキ球果における果樹カメムシ類の口針鞘数調査では、県内4地点の平均が1果あたり4.4本（平年2.6本）と平年より多く、球果からの離脱は平年より早く、早い地域では8月中旬から始まると予想される（表2）。
- (5) 以上の結果より、本年7月以降の果樹カメムシ類の誘殺数は、地域により差がみられるものの複数の地点で急増しており、今後の果樹園への多飛来が懸念される。また、本年度はスギ・ヒノキの球果着生量が少なく、ヒノキ球果の口針鞘数も平年より早く増加しているため、球果からの離脱時期が平年より早まり、園地への飛来が8月中旬頃より、本格化すると考えられる。

5 防除対策

- (1) 果樹カメムシ類は主に山林のスギ・ヒノキ球果を餌として増殖し、球果の状態が悪くなると球果から離脱して周辺の果樹園へ飛来するため、山間部や山沿い園では、発生加害が多いので特に注意する。
- (2) カメムシ類の発生時期や飛来量は地域や園地による差が大きく、同一園内でも局在するため、園内を観察し早期発見、早期防除に努める。
- (3) カメムシ類は日没直後になると園外から侵入し、翌朝飛び去るため、夕方や早朝の防除が有効である。
- (4) 薬剤の使用回数、濃度、使用量、使用時期を遵守するとともに、周辺作物への農

薬飛散（ドリフト）に注意する。

*なお、最新のカメムシ類の誘殺状況は、病害虫防除所HP (<http://www.jppn.ne.jp/kumamoto/>) に掲載しています。

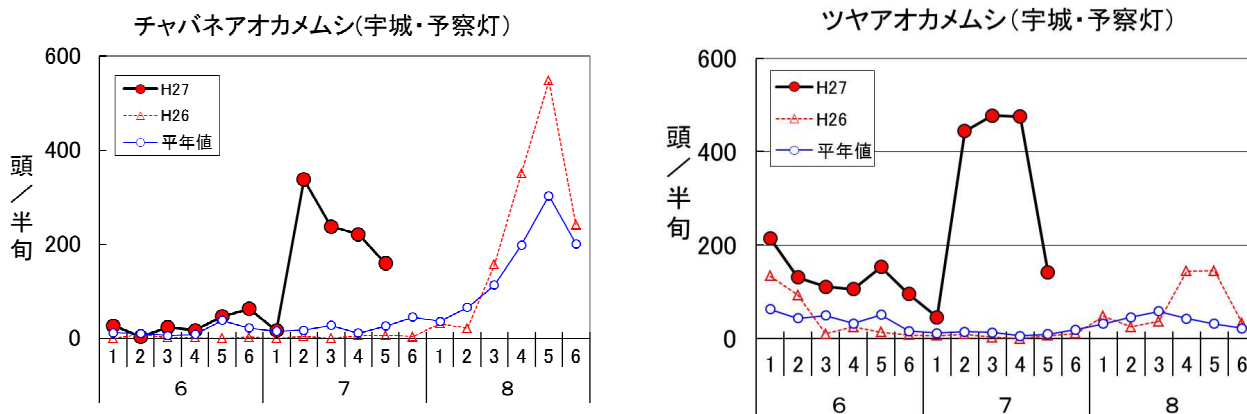


図1 宇城市におけるカメムシ類の誘殺数の推移（設置場所：果樹研究所）

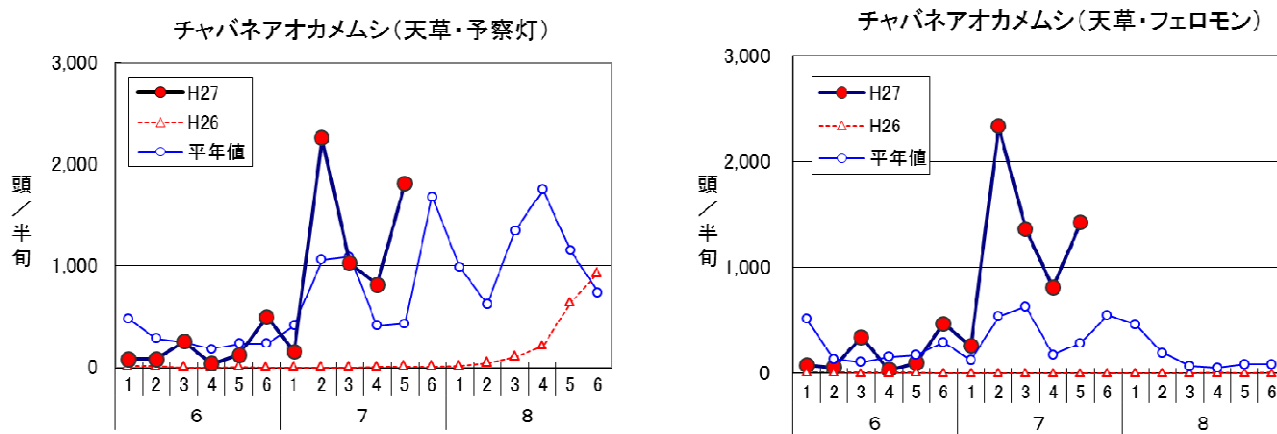


図2 天草市におけるチャバネアオカメムシ誘殺数の推移（設置場所：天草農業研究所）

表1 各地域のカメムシ類の誘殺状況（7月1半旬～7月5半旬）

地域名	チャバネアオカメムシ						ツヤアオカメムシ					
	予察灯			フェロモントラップ			予察灯			フェロモントラップ		
	本年	平年値	平年比	本年	平年値	平年比	本年	平年値	平年比	本年	平年値	平年比
合志市	29	129	22	74	136	54	66	28	236	0	0	-
宇城市	970	94	1032	860	3078	28	1583	54	2931	11	25	44
天草市	6067	3402	178	6182	1741	355	1075	698	154	52	60	87

単位：頭、平年比：本年誘殺量/平年値*100、合志市予察灯は7月第3半旬欠測

表2 ヒノキ球果口針鞞数からの離脱予想日

地点	口針鞞数 (1果当たり)	離脱までの日数	離脱予想日
合志	1.93	47	9月6日
河内	0.07	54	9月12日
松橋	6.43	31	8月21日
三角	9.10	22	8月11日
平均	4.38	38	8月28日
昨年	2.68	44	9月13日
平年	2.57	45	9月8日

(福岡県が開発した予測式を使用)

Y: 調査日から離脱日までの日数

X: ヒノキ球果の口針鞞数

調査日: 7月21日

熊本県病虫害防除所

(熊本県農業研究センター 生産環境研究所
病虫害研究室 予察指導係)

担当: 荒木、加賀山 TEL 096-248-6490